

令和元年度長野市健康増進・食育推進審議会議事録

日 時 令和元年8月1日(木)

午後2時～3時

場 所 長野市保健所会議室A B

出席者：中村会長、笠原委員職務代理、板倉委員、岡田委員、風間委員、北澤委員、久保委員、黒岩委員、小泉委員、佐藤委員、澤口委員、竹内委員、林委員、原委員、原山委員、宮沢委員、吉澤委員

1 開会

2 あいさつ 樋口保健福祉部長

3 議事

(1) 第三次長野市健康増進・食育推進計画(ながの健やかプラン21)進捗状況

ア 成果指標の平成30年度末における状況について 資料1

イ 本市の重点的な取組について 資料2

ウ 健康増進法の一部改正による受動喫煙対策について 資料3

(2) その他

4 その他

(1) 長野市健康増進・食育推進審議会の開催予定について

5 閉会

6 議事における意見等

資料1について

(会長)

資料2 ページ、【こころの健康・休養】No.2、3、5の目標の数字0.1、0.8はパーセントか。

(事務局)

記載ミスで、10%、80%である。訂正をお願いしたい。

(会長)

資料3 ページ、【歯・口腔の健康】No.2で、歯周病について減少傾向にはあるが、目標値からかなり外れているが、何か原因があるのか。

(事務局)

No.2の目標は、健康日本21第二次で掲げている目標を参考に設定している。長野市で実施している歯周疾患検診の受診者のうち、進行した歯周病の状況が40歳、60歳の割合が4割以上超え、年齢とともに増加しているのが現状。歯周病と糖尿病との関連はいわれている

が、これといった理由を示すのは難しい。

(会長)

つい最近、私のところに歯周疾患検診のハガキが届いた。しかし、検診としてではなく治療の中で経過を見るよう言われて受診券は使わなかった。市では検診の機会は提供して対策はされているが、実行されていないようだ。

(事務局)

節目の方を対象に歯周疾患検診をやっている。若い世代から歯周病予防をしていくことが大事ということで、昨年度から30歳も加えて行っているところである。

(会長)

資料1 ページ、【栄養・食生活、食育】で、肥満度、特に男子が増加傾向にあるが、何か原因があるのか。運動不足が原因か。

(事務局)

健康課では、乳幼児までの健康・生活実態のところは把握しているが、調査対象の学童期の状況は市教育委員会と県の栄養師が把握している。その担当に話を聞いたところ、今、運動量が激減していることが背景にあると伺っている。食生活については、個々の違いが極端に大きくなってきており、どういうものを食べているかが両極化している傾向があると聞いている。そういったことが背景にあるのではないか。

(会長)

それぞれの指標で、計画期間の毎年算定できる指標もあれば、評価できない、あるいはしないということがあるので、経過が把握できないところはダッシュ(ー)として示しているところか。把握できているところの進捗状況が芳しくないが、何らかの対策をしないと達成は実現できない。急激には変わらないので、力をいれて取り組まなければいけない。

資料2について

(会長)

先ほどのことにも関連するが、資料1の最後のページの一番下、「健康を支え、守るための社会環境の整備」、この数字も目標はかなり高いところにあって、環境が整っていると思う人の割合が数字としては低い、現状からは少し高めのところかと思う。例えば、高齢者の健康状態の特性については、30年度実績を先ほど説明されたが、特定健診受診者の結果から特に対象を絞って直接訪問するという手間暇のかかる大変なことをしているが、こういうことが環境整備と思われるのか。環境整備といった時に、何をもって環境といわれるのか。重点的な取組の中に、こういった環境整備が含まれているのか。

(事務局)

健康増進・食育推進計画では、市民の取組が継続しやすいようにということで、また一人

では取り組みにくいので、そういった仲間と支え合いながら、健康づくりの輪を広げていくということも含んでいる。地域におけるコミュニティ活動といった、一人ではなく、つながりを持ちながら積極的に参加できるような環境ということもある。食の環境でいえば野菜摂取の取組みを継続できるように飲食店へ働きかけて、「ながのベジライフ宣言応援店」の登録をして紹介するといったような食環境を整えるという環境も含んでいる。また、運動面では、気軽に運動しやすい環境ということで、場づくりであったり、その機会であったり、自主グループ活動であったりする。

また、健診を受けて医療機関を受診した場合、いろいろな関係者の支援で、個々のひとりの健康を支えている場合に医療機関や医師会、支援者との連携を持って同じ方向で支援していくというそういった環境もある。取組としては、市民の自主的な取組の人づくりと支援の場づくりということであげている。

(会長)

先ほどのフレイルのところにつながるというところ、それがみんなで一緒にというところ、今の30年度実績のところまで直接訪問されて指導という個人個々への支援の両方がされている。

最近「フレイル」という言葉がよく耳にするようになってきているが、昔からあったと思うが、特に言葉として定義されて、状況の説明のパンフレットができると、皆さん納得できると思うか、こうならないようにしようと思われる。フレイルは重点的な取組なのか。

(事務局)

人生100年時代、健康寿命の延伸を目指し、いつまでも元気で自立した生活を送れるよう、生活習慣病予防とフレイル予防の取組みは重要であると考えている。気づかないうちに糖尿病などの慢性の疾患や加齢に伴い、例えば、些細な口のトラブルから食べられなくなり、筋力が低下し、めまいやふらつきから転倒・骨折を引き起こすなど、身体的機能低下や社会的参加の減少が介護状態につながるという、フレイルの理解を広げて啓発することが重要であると考え、今年度は、フレイル予防啓発に重点的に取り組んでいる。

配付資料「フレイル予防チェック&ガイド」を作成したので、自身の状態を知って、「動く」「食べる」「つながる」といったフレイル予防3か条をこのリーフレットをもとに普及啓発していく。特に、低栄養とフレイルは関連があるといわれているので、このリーフレットで示すように、たんぱく質を十分とるようにアドバイスしている。男性で一日60g、女性で50g、片手に乗るくらいの50g程度の肉や魚、大豆などを一日三度の食事ですっかりとることも推奨している。フレイルは高齢者だけの問題ではなく、若いころから、口の健康状態をよい状態にケアすることや、しっかりよく噛んで食べるといった健康習慣の確立が重要に

なってくる。

動くことに関しても、日常の暮らしの中で、身体活動をいつもより10分多く動くことなどこまめに動くことを推奨している他、一人でやるより仲間とつながって取り組んだほうが介護予防には効果があるといわれているため、個人の取組と継続できる社会環境の整備についてフレイル予防を広めていきたい。

資料3について

(委員)

改正健康増進法でいう第1種施設の行政機関はどこまでの範囲になるのか。長野市でいったらどんな状況になるのか。行政機関の敷地内禁煙は始まっているという理解でいいのか。

(事務局)

基本的に国が言っているのは、企画立案の事務を行う場所とっており、長野市役所、各支所、他にも市役所の出先機関、現地機関はほぼ企画立案しているので、多くがこれに当たる。除外される観光施設、スポーツ施設については、国も除くと知っている。実際、スポーツ施設、観光施設に子どもが行かないかといったらそんなことはないが、逆に規制をするのが難しいということで法では除外をしたと思う。7月1日からそれぞれ敷地内禁煙ということで、行政機関、市のそれぞれの施設も取組んで周知するよう貼り紙等実施している。

(委員)

ありがとうございます。一番大事な公園やスポーツ施設が除かれているのは残念だ。

(事務局)

施設ということで、基本的には建物関係なので公園は入っていない。

(会長)

7月1日から一部改正で、そのことについての広報とか、何か特別なことをしているのか。

(事務局)

広報ながの5月1日号に法の改正についてということで掲載した。市のホームページにも掲載した。あとは、ラジオ放送の市政番組で周知した。

(会長)

何年か前に制定された「長野市ポイ捨て、道路等における喫煙等を防止し、きれいなまちをつくる条例」の時は、監視員の方が巡回指導をしていたが今回はそういうことはないのか。

(事務局)

今回、法の規制範囲は広く、職員が1つ1つの施設を巡回するのは厳しい。個々の問い合

わせや苦情があった場合に対応するというのが基本的なスタンス。駅前の辺りで苦情があったり現場を確認したり 気になるところではお店に声を掛けさせていただいたり、受動喫煙防止の徹底をお願いしているケースはある。

(会長)

現在は、喫煙者は減少しているが特定の人が継続的にたばこを吸っている気がするので、見かけたら受動喫煙の配慮を、一人一人に声を掛けるのが一番いいのかもしれませんが、なかなか難しい。集団への啓発は街頭でのティッシュ配りぐらいでしょうか、広報も大事である。

(2) その他

(事務局)

昨年も参考資料ということで、市の各課の取組の表を配った。正式な資料は、資料1、2、3であるが参考に見ていただきたい。昨年度、計画の概要版ということで冒頭説明をしたが、大元は健康増進計画の中にもそれぞれ細かく健康課以外の庁内の課の取り組み等について書かれているが、その進捗状況、実態を参考として書いてあるのでご覧いただきたい。